
転生者が自重しないリリカルなのは

餡子入りパスタライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生者が自重しないリリカルなのは

【Nコード】

N02390

【作者名】

餡子入りパスタライス

【あらすじ】

フェイトloveの主人公。フェイトのためなら銀河だって破壊すると断言するくらい変態。チートを与えたらさらに自重しなくなった主人公。「フェイトたん画面の外から愛してる!!」というぐらい現実では痛い人だった。

第1話

「ごめん殺しちゃったゝなにかチートあげるから勘弁して」

「キターー！！じゃ世界はリリカルなのは。能力は『なんでも出来るようにして』wwwwwwww」

「わかったwwww」

「いいのかよwwwwwwww」

「じゃ、逝ってこいwwww」

「字がちげーwwww」

目が覚めると俺はリリカルなのはの世界に来ていた。

「じゃ能力確認といきますか。フェイトタン来い!!」

「あれ此処は？」

マジでキター!!!!

「俺はお前が欲しい!! 結婚前提で付き合ってください!!」

そして同時に決まるDOGEZA。

「ノノえっ? 急には困る……」。

その前に此処どころ?
あなたはの名前は？」

「名前フェイトたんがつけてください（凄い爽やかな笑顔）」

「じゃ……アリスでどうかな……？」

ちよwww男なに女の名前をつけますかフェイトたんはwwwでも、感じちゃうwww

「有り難き幸せ！！このアリス！ フェイトたんのためなら、例えフェイトたんが全人類を滅ぼせと言われても従う所存であります！
！」

「はははは……。でアリス此処はどこ？」

「管理外世界の『地球』というところでございます」

「アリスって魔導師？」

「いえ、フェイトたんの為の騎士です」

「？」

首を傾げるフェイトたん、めっちゃかわゆすwww

「とりあえず帰りたいんだけど……バルディッシュ置いてきたやつだよ……私どうやって帰ればいいの……」

困り果てるフェイトたん萌えwww

「フェイトたん……どうか手を握らせてもらえないだろうか……？」

「えっ？別に構わないけど……」

ソフトタッチ。

子供だからだろうか、手が柔らかいwww
それと同時にフェイトさんに力を与える。

「え……？なに……」

「フェイトさんに与えたんだよ。力を……具体的に言うと、まず片手で世界を壊せるようにしたのと、相手の精神を操れるようにしました。更には完全の不老不死。最強だねwww」

フェイトさんが片手を振りかぶった。

地球は破滅したwww

凄い凶悪www

現在フェイトさんと一緒に宇宙を漂ってる。

「あはは……これ夢なんだね」

「そうだよwww夢だよwwwだからこの『世界』はフェイトさんの好きにしてみれば構わないんだよwww」

そして俺らは『世界』を楽しむため、無銭飲食や色々やった。

俺はフェイトさんが危なくならないように、猫の姿になって護衛していた。

ついでに、フェイトさんが滅ぼした世界は全て元通りに直した。

第2話

s a i d フ ェ イ ト

目が覚めるといつも通りの天井が目にはいった。

「でも、今日の見た夢、本当に凄かったな……色々と……」

「にゃー」

「ん？」

猫の鳴き声らしきものが聞こえる方を向けば、黒猫が一匹こちらを見ている。

「リニス？」

リニスはあれ以来姿を見ていなかったな……。

「にゃー」

猫は鳴くのをやめると突然私の肩に乗った。

「君は迷子……？」

「にゃー」

よくわからないので母さんの所に連れて行きたいと思います。

「母さん……」

「なに……」

いつにも増して不元気です。いつか昔みたいな優しい母さんに戻ってくれないかな……。

「母さんこの子なんだけど……」

「迷い込んだのかしらね……」

母さんが猫に触れようとすると、猫はプロテクションを張って防いだ。

私よりも上手いかもしれない。

「これ魔法生物ね……」

母さんが興味深そうに猫を見ると、無理矢理猫を私から剥がそうとします。

「にゃー」

猫が口を開と、口からレーザーらしきものが母さんを掠め、壁を突き破り、場外へ出て行った。

「なにこれ怖い……」

母さんが恐がるなんて初めてみました。

「アリス、だめでしょ？ 母さんに攻撃しちゃ」

「にゃー」

そう鳴くと『アリス』は頬を舐めた。

「くすぐったいよ」

「フェイト……そんな危ないものさつさと捨ててきな……」

そう母さんが言うと、アリスの目からレーザーが出た。

母さんは防御魔法を使いますが、一瞬にして貫かれました。

「なにこの猫恐い……」

また母さんの横を掠め、壁をぶち破り、また場外に出ていきました。

「駄目だよアリス……母さんを恐がらせちゃ……」

アリスを撫でると気持ちそうに鳴きました。

「ちょうどいいわ、フェイトその猫と一緒にジュエルシードを回収に行きなさい」

「分かりました……アリス行こう……」

「にゃー」

私が母さんに背を向けると、同時に後ろから凄まじい閃光と音が聞こえましたが……気のせいだと思います。

「アルフ行くよ」

「はいはい、ご主人様。
で、その猫はなんだい？」

アルフがアリスに触れようとしますが、アリスは目にも止まらない速さでアルフの手を尻尾で叩きつけました。それと同時に、アルフから骨が折れるそんな音が聞こえました。

「なにその猫恐い……」

アルフも母さんと同じこと言ってます。アリスは尻尾を私の首に巻き付けると、すやすやと眠り始めました。

第3話

S a i d フェイト

その土地に降り立つと、何故か懐かしいものを感じる。

「じゃアルフ、別々にジュエルシードを集めよう」

「了解したよご主人様」

「アリスも別々に探索してくれないかな？」

「にゃー」

そう言いますが、アリスは一向に私の肩から降りようとしません。

「あんなたもフェイトの使い魔なら主人の言うことを……グエっ！
」

アルフは何故が地面に寝そべり返っています。

「アルフしっかりしようよ……」

「だってその猫……ギャー！！ 止めて！！ 内臓が滅茶苦茶圧迫
される！！」

「アリス。めっ！」

私がそう言つと楽しそうに鳴き、それと同時にアルフからの奇声が聞こえなくなった。

「死ぬかと思つた……この糞猫!!」

そう言つとアルフはまた地面に押し潰され始めました。

今度は奇声が聞こえず、変わりにアルフからメキメキ嫌な音が聞こえます。

「もう許してあげよ?」

「にゃー」

アルフは気を失っていたので、困り果てていたら、アルフが突然痛がり始めた。

「痛い痛い!! 起きるからもう止めて!! フェイトに迷惑かけないから! ほんとお願いします!!」

「アリス……」

私は真剣な目でアリスを見つめると、アルフの悲鳴が止まりました。

「にゃー」

どうやら、わかってくれたみたいです。

「じゃ、アリスは私と一緒に探索に出かけよう」

アルフに背を向けると、人とは思えぬ悲鳴と、強烈な光が背後から
感じ取れるけど、今はジュエルシードを探さないと……。

第4話

s a i d e アリス

クンカクンカフェイト！ フェイト！ フェイト！フェイトおおお
おおわああああああああああああああああああん！！！！
あああああ…ああ…あつあつー！あああああああ！！！フェイ
トフェイトフェイトううあわああああ！！！！

ああクンカクンカ！クンカクンカ！スーハー！スーハー！スーハー
ーハー！！いい匂いだなあ…くんくん

んはあつ！ フェイトさんの金髪をクンカクンカしてるよおおお
おおお（現在進行形）！クンカクンカ！あああ！！

間違えた！モフモフされたいよおおお（猫的な意味で）！モ
フモフ！モフモフ！モフモフ！フェイトさんの手でモフモフ…きゅ
んきゅんきゅい！！

アニメ1期と2期のフェイトさんかわいいよう！！ ああああ…
あああ…あつあああああ！！ふあああああんっ！！

劇場版が公開されてよかったねフェイトたん！ ああああああ！
かわいい！ フェイトたん！ かわいい！あつあああああ！

p s p ポータブルも発売されて嬉し…いやああああああ！！！！に
やあああああああん！！ぎやあああああああ！！

ぐあああああああああ！！！！ アニメなんて現実じゃない！！
！！ フェイトたん は 現実 じ や な い？にやあああああ
あああああああん！！うあああああああああああ！！

そんなふさげた幻想この俺がぶち壊してやるよおおおおお！！
！！！！！！！！！！

クンカクンカフェイト！（以下ループ

s a i d e フェイト

アリスがさつきから妙に私の髪に顔を近づいているせいで首元がくすぐったい。

あっぱり肩に猫を乗せるのは珍しいのか、人々がとても注目しているような気がする。

朝方は人が多いので地道に歩いてジュエルシードを探すのも一苦勞……でもお母さんのために早く見つけなきゃならない。休んでいる暇も弱音を吐いている暇もないんだ。フェイト・テストロッサ今日もがんばります!!

「アリス私ちよつとトイレ行ってくるからここで待ってて」

「にゃあゝ。はあはあ……。にゃあゝ。はあはあ……」

アリスを肩から下ろそうとするけど中々離れてくれない。

「めっ!! 駄目だよアリス」

「うわあああゝゝにゃゝああああ」

s a i d e アリス

猫ならトイレまでついていけると思った俺が浅はかだった……。トイレでは今頃金髪幼女ハンター通称KYHがフェイトさんのトイレを覗いていることだろう……。許せねえ!!!! ああ……やっぱり駄目だフェイトさんの髪をクンカクンカしていないと精神衛生上よろしくない。

危なかった。もしフェイトさんが後少しでも遅ければ銀河系が破滅していたかもしれない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0239o/>

転生者が自重しないリリカルなのは

2011年9月1日13時24分発行